

文科省の片岡参事官が資料 26-2-1(衛星観測監視システムの見解)を 3 分弱で説明した後、3 分弱の質疑応答があった。その後、JAXA の本間執行役が資料 26-2-2(海洋地球観測探査システム)を 10 分程で説明した後、7 分程の質疑応答があった。

青江: 災害監視衛星って言いましょうか、此れも此れん中へ入るんですよ。それで、8 月中旬...、中旬になりまして纏める...と言いますのはネ、災害監視衛星についての所謂事前評価、今やってる最中なんですネ、オン・ゴーイングなんですネ。其れを、多分やったあとの方がタイミングとして、多分良いのかナァと云う気がするんですけども、間に合わない可能性もあるんですネ。こっちの方を先に持ってかなきゃいかん。そうすると、あれについての結論が出ない前に、其れをインクルードした、此れについての一種の評価を行う、其れを含めた全体のネ。どうするかナァと、一寸思ったんだけど、上手く行きますかネ。

片岡参事官: ええと、スケジュールと致しましては、出来れば次回の定例会に於きまして、見解の案をお出しさせて頂いて纏めて頂ければと考えていますので。

青江: と云う事になると災害監視衛星の、あの SAR 衛星についての事前評価が間に合わないネ。

片岡参事官: そう云う事になるかも知れません。

青江: 何か...間に合わなくても良いか。

松尾委員長: (マイクを通さないのので聞こえない)

青江: ただ其処はネエ、完全にインクルードするんですよ。新しい

ものとしてネ。あの、此の災害監視、ええと、海洋地球観測探査システムの中に、カチャンと新しく入れるんですよ。其の意味に於いて、...

池上: 済みません、此の後の説明ん中に入ってます? 入ってないでしょ。

JAXA 本間: ええ、入ってます。

池上: あ、一応、災害監視入ってる?

JAXA 本間: チラッと見ると無いけれど、入ってるんですネ。

松尾委員長: まあ、どっちのスケジュールが固いかと言うと、此の話の 8 月中旬の方が固いんですネ。

青江: 急いでるんですな、向こうが。科学技術学術審議会の方が急いでる訳ね。

松尾委員長: 推進部会の方も駆足って訳にも行かないでしょうから、日程も決まっていますからネ。

青江: ウーン、一寸考えなきゃいかんかも知れませんね。ウン、何か知恵を出さなきゃいかんかも知れない。ハイ。

(此処で JAXA 本間執行役の説明)

松尾委員長: 何かご質問等御座いますか。

池上: あの、さっきの質問なんですけど、先程青江委員の方から指摘のあった災害監視衛星は何処に書いてあるんですか。

JAXA 本間: 頁数で言いますと此の資料の中の 10 頁。元々此の衛星システムの中の二つ目のカテゴリーが「災害監視衛星技術」って云うカテゴリーでありますけど、まあ、上がってる衛

星は「だいち」であります、災害監視衛星については現状をご説明して居ります。

池上:と云う事はALOSの中にあるって云う事?

JAXA 本間:いえ、違います。あのALOSは11頁に個別にご説明して居ります。

池上:下の「その他」に書いてある処を以て入っていると読めと、斯う云う事? いや、だって、チャンと絵が書いてあるじゃないですか、上の方の真ん中、準天頂衛星とかネ。何で絵が無いんですか。

青江:えっへっへっへ。

JAXA 本間:あの、現在、えー、

池上:いえ、此れ決まって無いと思ってる訳ですネ。

JAXA 本間:審査中ですので、あの、推進部会です承が得られ次第、絵を入れたいなと思ってます。

池上:チョッチョッチョ、何か答えて下さい。

青江:準天頂はもうGOなんです。

池上:ああ、GO掛って無いから?

青江:一応あれ、事前評価が終わってない。審議中。

池上:ええ、ええ、それで此処に書けなかった。絵は描かなかった。

青江:遠慮してんです。えっへっへ。

JAXA 本間:ええ、あの、若干。

松尾委員長:そこが一寸、さっき「工夫が要りますね」と言ってた辺りで、

青江:そうですネ。そう云う事です。

松尾委員長:はい。

青江:あの一、今回、学術審議会の方からですネ、此処の分は宇宙開発委員会でレビューをして持って来て下さいよと。全体は学術審議会の方で取りまとめますと。それでネ、此の絵ですよネ、此の絵からですネ、要するに此処は頼みますよと、斯う云われてる訳ネ。

JAXA 本間:そうです。

青江:こっちは、だから、向うでやってくれる訳ネ。此の上の「データ統合解析システム」とか。

片岡参事官:そうなります。

青江:と云う事ネ。あの一、非常に心配しとると言いましょかネ。こっちがホントにどう云う状態にあるのか。あの例の宇宙開発特別部会で、衛星利用の時に、観測衛星等のレポートを纏めましたよネ。あの時に、データ利用と云う事につきましては、各委員の先生方から、各委員の先生方から、まあ、所謂衛星機関側の問題を少し踏み越えてもですネ、少しJAXAに色々な事をやって貰わなきゃいかんだと云う強い要望が有って、あのレポートの後ろ側の部分は利用促進と言いましょか、データ統合の問題を中心に若干踏み込んで描いた訳ですネ。宇宙問題を少し超えてでも、で、其れがホントにチャンと行ってんだらうかと云うのは、一度此方も聞かしておいて貰いたいナァと云う気持ちは有るんですけどネ。其れはまあ、別の機会でも良いんですけれども。あの一、あんまりこう、あれはもう、学術審議会ですてやってくれるものと云うだけで、もういいよと云うのもどうかかと

思ってるんですよ。

もう一つ良く分んなかったんですけどですネ、参考の「衛星データ利用の拡大」って云うのが有りますネ。14 頁。これはどう云うデータだと思えば良い訳ですか。

JAXA 本間: 基本的には、レベル零と言いますが、ユーザーが自分達が持っている解析ソフトウェアで、解析するに必要な処迄の加工をしたデータを JAXA 側からユーザーに引き渡している、其れのトータル数を此処に示しております。まあ、其れを我々レベル零データと云う風に呼んでいます。

青江: だからまあ、所謂、ユーザーが取敢えず使えると云う処迄、宇宙機関側で処理をしたやつをユーザーに渡す、それで其の単位は何て言うのかナァ、あの、此の量が 135%、190% と非常に増えて居ると云うのはネ、これは大変結構だと云う事なんですからけれども、何を以てカウントしてるのかと言いましようかね。

JAXA 本間: 衛星夫々に 1 シーンで云う、

青江: シーン数で、ええと、

JAXA 本間: 例えば ALOS で言いますと、70 キロ四方とか。

青江: 或る、例えば何とか大学に 1 シーン提供すれば、有償か無償かを問わず、提供すれば此れが 1 と。

JAXA 本間: そうです。

青江: と云う、カウントだと思えば良いわけ？ ほー。で、135、190 と云うのはですネ、非常に高い伸びだと、特に 190 なんてのは非常に高い伸びだと思うんですけども、此れは過去のあれからすると、やっぱり、その一、此れは殆ど「だいち」

のコントリビューションだと思えば良いんですか？

JAXA 本間: 此の内訳に書いてあります通り、「だいち」のコントリビューションがかなり多いのと、もう一つは一寸小さいんですが、AQUA。あの一、マイクロ波放射計で、例えば漁業センターが漁業に使う為の海水温を調べるとか、そう云う応用例がかなりこの AQUA が使われて居ります。それから元々地球温暖化の研究者の方のモデルを作る時の一つの基礎データとしても使われて居ります。

青江: やっぱり自分のと此の衛星を持つと随分違うもんだと云う感じですか¹。

JAXA 本間: ええ。あの一、我々予測していた以上に、沢山使われ出しているのが実感です。

青江: 20 年度の、まあ、所謂、第 1 四半期みたいなものからしても此の傾向は有ると思ってる良いですか。

JAXA 本間: はい、あの、特に ALOS はですネ、19 年度に比べて、一寸うろ覚えですが、2 倍とは言いませんが、伸び率は更に 5 割増しとかですネ、ドンドン増えて居ります。

松尾: 宜しいですか？ はい、それでは有難う御座いました。此の件を終わります。

¹ 地球観測で華々しい成果を発表したいと云う願望が伺える。しかし、20 年以上掛けてジワジワと利用者が広がって来た事を考えると、安易な高望みは危険ではないだろうか。